

経営比較分析表（平成28年度決算）

鳥取県 若桜町

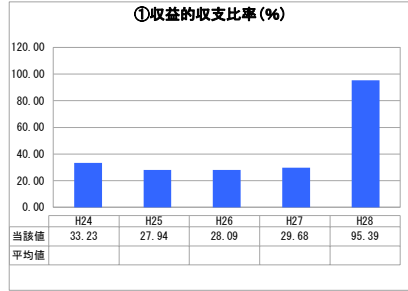
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	16.15	100.00	3,780

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,432	199.18	17.23
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
551	0.84	655.95

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



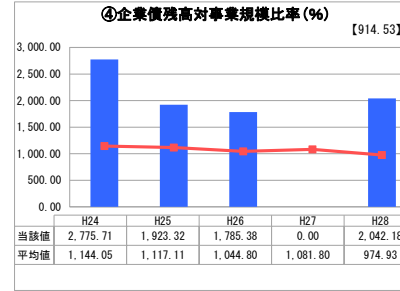
「単年度の収支」



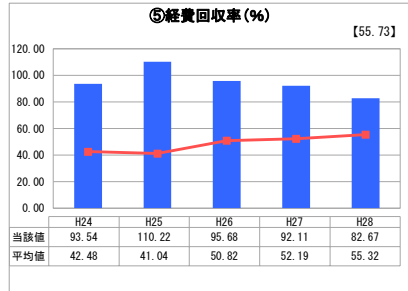
「累積欠損」



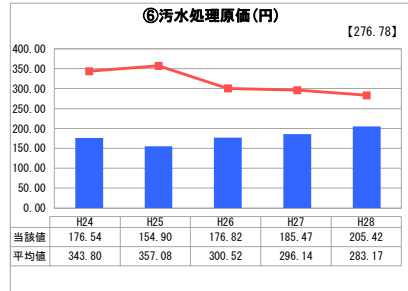
「支払能力」



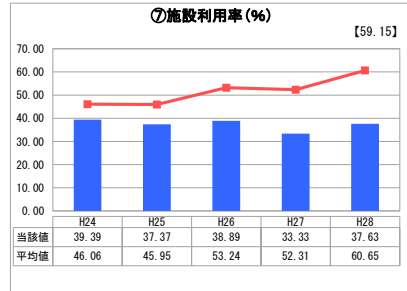
「債務残高」



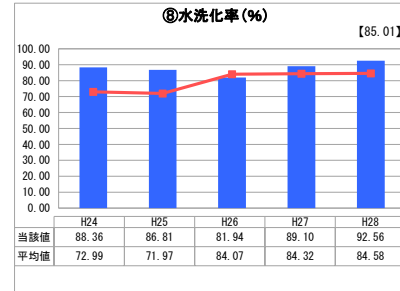
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

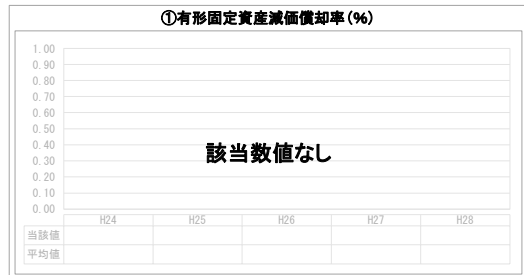


「施設の効率性」

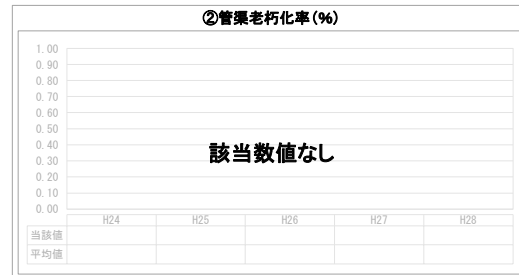


「使用料対象の捕捉」

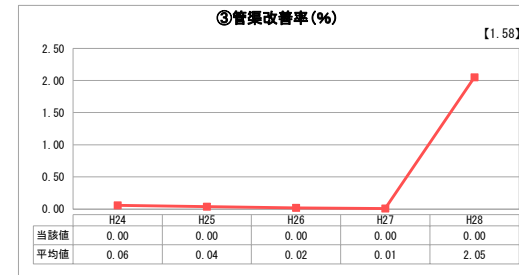
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率(%)は95.39%となっており、単年度の収支が赤字である。しかしながら、平成28年度決算については、経費の入力区分の見直しを行ったことにより経年で比較した場合には経営改善傾向が見られるようになっている。

④企業債残高対事業規模比率(%)は2,042.18%となっており、割合が高くなっている。

⑤経費回収率(%)は82.67%となっており、使用料で回収すべき経費を全て使用料で賄えておらず、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減が必要である。

⑥汚水処理原価(円)は205.42円と類似団体と比較すると低い数値を示しているが、経年で比較した場合には増加傾向にあり、今後も注視していく必要がある。

⑦施設利用率(%)は37.63%と類似団体と比較すると低い数値を示しており、適切な施設規模を維持する必要がある。

⑧水洗化率(%)は92.56%となっており、水洗化率向上の取組が必要である。

2. 老朽化の状況について

③管渠改善率(%)は0%となっており、今後老朽化が進行する場合は更新の検討を行う必要がある。

全体総括

今後老朽化の進行に伴い、設備更新等による維持管理費の増加が予測されるため、適正な経営のあり方について検討していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。